

福島県立医科大学々報

目 次

○ 学 事	-----	
平成28年4月6日入学式学長式辞	2
平成28年度入学者数	3
平成27年度医学博士授与者（後期）	3
○ 人 事	-----	
新任教授等・新任准教授等・新任講師・新任事務局等	4
新任あいさつ	5
・副理事長（復興担当）兼ふくしま国際医療科学センター長	谷川 攻一	
・理事（県民健康管理担当）兼副学長	大平 弘正	
・理事（研究・地域医療担当）兼副学長	宇川 義一	
・理事（教育担当）兼副学長	橋本 康弘	
・理事（医療・臨床教育担当）兼副学長兼附属病院長	齋藤 清	
・看護学部長	畠山とも子	
・ふくしま子ども・女性医療支援センター長	特命教授 水沼 英樹	
・血液内科学講座	主任教授 池添 隆之	
・リウマチ膠原病内科学講座	主任教授 右田 清志	
・糖尿病内分泌代謝内科学講座	主任教授 島袋 充生	
・耳鼻咽喉科学講座	主任教授 室野 重之	
・放射線医学講座	主任教授 伊藤 浩	
・リハビリテーション医学講座	主任教授 大井 直往	
・先端核医学医療講座	主任教授 竹之下誠一	
・新医療系学部設置準備室	室長 矢吹 省司	
○ 諸 規 程 改 正	-----	
平成28年2月から平成28年9月までの主な諸規程の制定、改正及び改廃関係	11
○ 役員会・経営審議会・教育研究審議会・医学部教授会・看護学部教授会	-----	
役員会	17
経営審議会	18
教育研究審議会	18
医学部教授会	18
看護学部教授会	19
○ 雑 報	-----	
寄附講座の設置について	20
ふくしま国際医療科学センターのグランドオープンについて	20

学 事

■ 平成28年4月6日 福島県立医科大学 入学式

学長式辞

福島県立医科大学 学長 菊地 臣 一

本日、福島県立医科大学大学院及び大学に入学を許可されました諸君、おめでとうございます。

本学は、今、原発事故という過去に例をみない惨禍との闘いの最前線に立っています。

先人の叡智は、困難に直面した時、それを「悪いこと」とは嘆かず、「自らを鍛える良い機会」と捉えて、その困難と闘うことの大切さを説いています。

入学式とは「未来の覚悟」を表明する場です。

君達は、看護や医療のプロになることを決意して、この入学式に臨んでいる筈です。

君達が学びの場で向き合うのは人間です。人間とは、不思議な生き物です。しかも、矛盾に満ちた存在でも在ります。今まで学んできた整合性のある理や数値で理解出来るものではありません。人間の身体の仕組みは不思議で、しかもその言動は必ずしも合理的であるとは言えません。人間には、二面性も三面性も有ります。一人の人間の中に、矛盾していることが同時に存在しているのです。ある一面だけを見ていたのでは真実を見誤ります。その人間が作っている世間もまた矛盾に満ちています。

今日から、君達はこの学舎で、人間学を究めていくのです。看護や医学を学ぶ中で、様々な経験を、そして挫折を通じて、看護や医学を志す人間としての価値観を培っていくのです。それを獲得していくには、日々の努力が求められます。

しかも、今日から始まる修業では、努力の目標は「結果」ではないのです。結果を目指す「過程」が大切なのです。この点も、今まで君達が持っていたであろう認識と違う点です。結果が全てである看護や医療のプロになった人と、プロになるべく修業をしている人との差がここにあります。

今日、新たな一步を踏み出した君達、本学での出会いを大切にしてください。「遇うて空しく過ぐる勿れ」です。人生は出会いに尽きます。何故なら、“人生の扉は他人が開く”からです。

どの出会いが自分にとって大切かは、その時は分かりません。だからこそ、すべての出会いに真摯に向き合うことです。出会いは、人生を豊かにしてくれます。

「出会い」に運命的な出会いなどというものはなく、出会った後に、お互いが相手に信頼と敬意を持って接する、

長い日々の営みの積み重ねが、絆をつくり、その結果が「掛け替えのない友人や師匠」を作っていくのです。

これからの学びの日々、君達は制服を身に纏います。

「外形は内容を規定する」という箴言に従えば、制服は着る者に小さな覚悟を強めます。周囲は、君達に白衣を身に纏う人間に相応しい振舞いを要求します。白衣は、君達に誇りと忍耐を求めるのです。白衣を身につけた瞬間から、日々、厳しい目で周囲から評価されることを覚悟して下さい。

この瞬間から、君達は「何になったか」ではなく「何をしたか」が問われるのです。

人間は所詮、自分の人生しか生きられません。しかも、人間の一生というのは短く、限りがあります。この学びの日々も、あつと言う間も無く、終わってしまいます。

看護や医療のプロになる過程で、我々は、何かを獲得しようとする時には、同じだけ何かを捨てなければなりません。その選択を世間の価値観に委ねてはいけません。何故なら、世間は君の人生に責任をとってはくれないからです。世の中は、自分の思い通りには行かないものです。人生は断念の積み重ねでもあるのです。それだけに、自分の目標を絶えず意識して学んで下さい。

学びの日々の中、君達はこれから様々な悔しさと哀しみを味わう筈です。でも、恐れたり怯むことはありません。人間は、皆失敗しながら生きているのです。皆自分なりのベストを尽くして、ひた向きに生きているというのが世の中です。途方に暮れた時、日々遭遇する、目の前の一つ一つに、逃げずに愚直に向き合うことが大切です。その日々の繰り返し、君達を成長させてくれます。成長するには、日々、変わらなければならないのです。

人間というものは、人生が配ってくれたカードでやっていくもので、配られたカードが悪いと愚痴をこぼしたりするものではありません。これから必ず味わう矛盾や不条理、或いは自分に不都合な、面白くない事に直面した時、その原因を世間や他者のせいにははいけません。自分を正当化する言動は、君の理解者や支援者を失くしてしまいます。怒り、哀しみ、屈辱、劣等感を自分の裡に受け止めて下さい。その葛藤と上手に折り合い、それらを昇華させる事で、勁さと優しさが育まれていきます。

人生こうしよう、ああしようと計画を立てて、自分の人生を考えても、その通りになることはありません。殆ど違った方向へ行ってしまうのです。でも、大切なことは、その場その場で自分のベストを尽くすことです。

少し先を歩んでいる医療人として君達に伝えておくことがあります。

まず、「修業とは矛盾に耐えること」です。

自然に四季があるように、人間にも一度きりの四季があります。今の君達は春です。自らを鍛える時です。この時季、世の中の矛盾や不条理に耐えられなければ、君達の夏、看護や医療のプロになった時、一人前にはなれません。修

業や人生では、己には納得のいかない事が日々起こります。大切な事は、そこから逃げずに、目の前の小さな事から取り組むことです。

先輩や教師は、君達がひたむきに努力している姿をみると、君達を愛しく思い、教え育もうという熱意を持てるのです。「風を待っている軒下の風鈴」では決して鍛えられません。双方の熱意がぶつかり合っ初めて、「人生の扉は他人が開く」という言葉が君達の前に顕れるのです。

もう一つは、「愚直なる継続」です。

これを実行するには鉄のような意志が必要です。「愚直なる継続」は、他人とではなく、自分との闘いです。愚直なる継続を貫くには、時には、心に鎧を着せて学ぶことも求められます。

最後に、「出来ない理由を考えるより、どうしたら出来るか」という考え方に頭を切り替えることです。これは、看護や医療のプロとしての基本的な考え方です。

自ら杓を勝手に決めると、それ以上は自分の能力を發揮できません。高い目標を先ず、設定して、それを達成するために、自分にできる全ての努力をそこに集中することです。杓は作るものではなく、結果として出来るものです。

臨床の現場では、その場面、場面で、全てが違います。人が居ない、モノが無いは、出来ない理由にならないのです。我々は与えられた条件の下で闘うしかないので。

看護や医療の現場では、寝ている人間を起こしたり、座っている人間を立たせる程の時間は、誰も持っていません。「人生は短いのではなく、実はその多くを浪費しているのだ」という古人の箴言を胸に刻んで、学びの日々を送って下さい。

今日からの君達の精進を期待しています。

■ 平成28年度福島県立医科大学入学者数

① 医学部新入生130名

	男	女	計
県内	21名	18名	39名
県外	61名	30名	91名
計	82名	48名	130名

② 看護学部新入生84名

	男	女	計
県内	4名	56名	60名
県外	1名	23名	24名
計	5名	79名	84名

③ 大学院新入生61名

	男	女	計
医学研究科(博士)	26名	7名	33名

医学研究科(修士)	3名	1名	4名
医学研究科(共同・修士)	7名	7名	14名
看護学研究科(修士)	0名	10名	10名
計	36名	25名	61名

■ 医学博士授与者

平成27年度後期分医学博士授与者

氏名	学位論文名
仲江川雄太	Effect of structural differences in collagen sponge scaffolds on tracheal epithelium regeneration.
武藤 哲史	Clinical significance of expanded Foxp3+ Helios- regulatory T cells in patients with non-small cell lung cancer. (非小細胞肺癌患者における Foxp3+ Helios- 制御性T細胞の増加と、その臨床的意義)
清水 竹史	Cardio-protective effects of pentraxin 3 produced from bone marrow-derived cells against ischemia/reperfusion injury. (骨髄由来細胞からの pentraxin 3 産生は心筋虚血再灌流傷害において保護的役割を果たす)
鈴木 康仁	気管支喘息管理における硫化水素測定の意義
千田 峻	Stromal VCAN expression as a robust prognostic biomarker for disease recurrence in stage II-III colorectal cancer. (stage II-III 大腸癌の予後バイオマーカーとしての間質遺伝子 VCAN 発現)
芳賀淳一郎	移植前臍島処置法確立に向けた網羅的遺伝子解析による生物学的機能情報変化の検討
宮崎 希	Preventive effect of hydrogen water on the development of bladder dysfunction in a rat model of bladder outlet obstruction. (尿道閉塞モデルラットにおける膀胱機能障害の発生に対する水素水の予防効果)
佐藤 哲	OK-432+fibrinogen+thrombin 塞栓療法による宿主免疫賦活作用に関する検討 —OK-432+fibrin 存在下でマクロファージ遊走・活性化に注目して—
鈴木 亮	Optimal bovine collagen concentration to achieve tracheal epithelial coverage of collagen sponges.
多田 武志	遺伝子発現スコアリングシステムを用いた食道類基底細胞癌の鑑別診断法の構築
佐藤 直哉	移植前 Mitomycin-C 処置による臍島移植グ

<p>ラフト生着延長のメカニズムの解明</p> <p>小林 良浩 The effect of an Acid-sensing ion channel 3 (ASIC3) inhibitor on pain-related behavior by nucleus pulposus applied on the nerve root in rats. (ラット髄核留置モデルにおけるASIC3阻害薬の効果)</p> <p>植松 学 気管支喘息管理における呼気一酸化窒素日内変動測定の有効性</p> <p>猪狩 貴弘 Epidemiological Study of Lumbar Spinal Stenosis : 10-year Community Follow-up. (地域住民における腰部脊柱管狭窄の自然経過-10年フォローアップ)</p> <p>古川 未希 Autocrine and paracrine regulatory mechanisms by growth arrest-specific gene 6 contribute to disease progression of multiple myeloma. (多発性骨髄腫におけるgrowth arrest-specific gene 6のオートクライン・パラクライン機構)</p> <p>宮崎 恭平 Establishment of evaluating the endothelial cell injury by TNF-α in vitro with implicated the pathophysiology of virus-associated acute encephalopathy. (ウイルス関連急性脳症の病態解明を目指したTNF-αによる血管内皮細胞障害評価モデルの確立)</p> <p>鈴木 貴久 Development of small imaging tools for the extracellular space. (細胞外環境に適応した小さな分子イメージングツールの開発)</p> <p>安田 俊 The effects of acute hypoxemia under magnesium sulphate administration on baroreflex in chronically instrumented fetal sheep. (慢性羊胎仔実験モデルを用いた硫酸マグネシウム投与下における急性低酸素が胎児圧受容体反射に与える影響)</p> <p>高柳 宏史 Economic impact and health effect of family physicians in Kitakata city. (喜多方市における家庭医による経済効果ならびに健康への影響の検討)</p> <p>大和田卓史 Resolution of mitochondrial oxidant stress improves aged-cardiovascular performance. (ミトコンドリアにおける酸化ストレスの除去は、老化に伴う心血管機能低下を改善する)</p> <p>高澤奈緒美 School-based programs to reduce non-obese dieting behavior in Japanese high school students. (非肥満の高校生における、ダイエット行動予防授業の効果)</p> <p>花山 寛之 膝関節細胞シートへの改良型アデノウイルスベクターを用いた抗アポトーシス遺伝子導入の検討</p>	<p>西浦 継介 統合失調症前頭前野における血液脳関門構成分子クローデイン-5の発現異常とPKAシグナルの活性化</p> <p>眞下由美子 Post-engraftment blood transfusion and outcomes of bone marrow transplantation. (骨髄移植における生着後の輸血と予後の相関)</p> <p>杉本 充 Possible participation of IgG4 in the activation of complement in IgG4 related disease with hypocomplementemia. (低補体血症を伴うIgG4関連疾患におけるIgG4が補体活性化に関与している可能性)</p> <p>田村 貴光 OUTCOME OF CLIVAL CHORDOMAS AFTER SKULL BASE SURGERIES WITH MEAN FOLLOW-UP OF 10 YEARS. (斜台部脊索腫における頭蓋底手術後 平均観察期間10年の予後評価)</p> <p>高橋 裕志 CD4+ T cells in aged or thymectomized recipients of allogeneic stem cell transplantation. (高齢または胸腺摘出後の同種造血幹細胞移植レシピエントにおけるCD4陽性T細胞動態の検討)</p>
<h2 style="margin: 0;">人 事</h2>	
<p>(平成28年9月30日現在)</p>	
<p>◎新任教授等</p>	
<p>採用 H28.3.1</p>	<p>痛み緩和医療センター 教授 小幡 英章</p>
<p>採用 H28.4.1</p>	<p>ふたば救急総合医療支援センター 特命教授 田勢長一郎</p>
<p>採用 H28.4.1</p>	<p>ふくしま子ども・女性医療支援センター 特命教授 水沼 英樹</p>
<p>採用 H28.4.1</p>	<p>新医療系学部設置準備室 特命教授 早坂 勇二</p>
<p>採用 H28.4.1</p>	<p>先端核医学医療講座 教授 竹之下誠一</p>
<p>採用 H28.4.1</p>	<p>循環器・血液内科学講座 教授 石田 隆史</p>
<p>採用 H28.4.1</p>	<p>災害医療支援講座 教授 小鷹 昌明</p>
<p>採用 H28.4.1</p>	<p>ふくしま子ども・女性医療支援センター 教授 横山 浩之</p>
<p>採用 H28.4.1</p>	<p>ふくしま子ども・女性医療支援センター 教授 高橋 俊文</p>
<p>採用 H28.4.1</p>	<p>先端臨床研究センター 教授 久保 均</p>
<p>採用 H28.4.1</p>	<p>先端臨床研究センター 教授 趙 松吉</p>
<p>採用 H28.4.1</p>	<p>大学院医学研究科 教授 山田智恵理</p>
<p>採用 H28.4.1</p>	<p>大学院医学研究科 教授 末永カツ子</p>

昇任 H28.4.1	リハビリテーション医学講座	教授	大井 直往
昇任 H28.4.1	総合科学教育研究センター	教授	渡辺 あや
昇任 H28.4.1	整形外科科学講座	教授	青田 恵郎
採用 H28.4.1	療養支援看護学部門	教授	山手 美和
採用 H28.4.1	家族看護学部門	教授	和田久美子
採用 H28.4.1	地域・在宅看護学部門	教授	高橋 香子
採用 H28.4.1	総合科学教育研究センター	教授	三澤 文紀
採用 H28.5.1	腸内環境病態医療学講座	教授	大原 正志
採用 H28.5.1	血液内科学講座	教授	池添 隆之
採用 H28.5.1	放射線医学講座	教授	伊藤 浩
採用 H28.7.1	小児科学講座	特命教授	横山 公彦
採用 H28.7.1	腎臓高血圧内科学講座	教授	風間順一郎
採用 H28.7.1	耳鼻咽喉科学講座	教授	室野 重之
採用 H28.8.1	リウマチ膠原病内科学講座	教授	右田 清志
採用 H28.9.1	糖尿病内分泌代謝内科学講座	教授	島袋 充生
昇任 H28.9.1	外科研修支援担当	教授	木村 隆
◎新任准教授等			
採用 H28.4.1	放射線医学県民健康管理センター	特命准教授	中島 聡美
採用 H28.4.1	医療研究推進センター	特命准教授	南川 一夫
昇任 H28.4.1	腫瘍内科学講座	准教授	野地 秀義
昇任 H28.4.1	総合科学教育研究センター	准教授	立柳 聡
採用 H28.4.1	基礎看護学部門	准教授	木下美佐子
昇任 H28.4.1	(会)臨床疫学研究室	准教授	栗田 宜明
採用 H28.4.1	(会)漢方医学講座	科部長	坪 敏仁
昇任 H28.4.1	(会)感染症・呼吸器内科学講座	科部長	齋藤美和子
◎新任講師等			
採用 H28.4.1	災害医療支援講座	講師	赤津 賢彦
採用 H28.4.1	多能性幹細胞研究講座	講師	齋藤 元伸
採用 H28.4.1	公衆衛生学講座	講師	大類 真嗣
採用 H28.4.1	生体物質研究部門	講師	高草木洋一
採用 H28.4.1	臨床研究教育推進部	講師	矢嶋 宣幸
昇任 H28.4.1	衛生学・予防医学講座	講師	各務 竹康
昇任 H28.4.1	器官制御外科学講座	講師	門馬 智之
昇任 H28.4.1	地域・家庭医療学講座	講師	菅家 智史
採用 H28.4.1	(会)小腸・大腸・肛門科学講座	科長	愛澤 正人
採用 H28.6.1	附属実験動物研究施設	講師	小澤 和典
昇任 H28.6.1	神経精神医学講座	講師	志賀 哲也
昇任 H28.6.1	地域連携部	准教授	山田 仁
昇任 H28.6.1	医療情報部	准教授	多田 靖宏

昇任 H28.6.1	小児腫瘍内科	講師	望月 一弘
採用 H28.7.1	(会)消化器内科学講座	科長	佐藤 愛
昇任 H28.7.1	血液内科学講座	講師	大河原 浩

■ 新任あいさつ



就任のご挨拶

副理事長（復興担当）兼
 ふくしま国際医療科学センター長兼
 ふたば救急総合医療支援センター長

谷川 攻 一

このたび副理事長（復興担当）、ふくしま国際医療科学センター長、ふたば救急総合医療支援センター長を拝命しました。

ふくしま国際医療科学センターは基本構想の策定から4年、着工から2年余を経て、平成28年12月に無事グランドオープンを迎えることができました。福島復興のシンボルとして県民・国民の期待に応えるには、放射線医学県民健康管理センター、先端臨床研究センター、医療-産業トランスレーショナルリサーチセンター、先端診療部門、健康増進センター、甲状腺・内分泌センター、そして教育・人材育成部門それぞれの部署・職員が一丸となって、精力的に事業を推進する必要があります。本学は福島の経験をサイエンスとして展開し、そして次世代を担う医療人の育成に役立てて行くという責務を担っています。ふくしま国際医療科学センターはその牽引役とならなければなりません。また、避難地域である双葉地域の医療体制整備に向けた支援は本学の歴史的使命と位置付けられており、その目的遂行のため平成28年4月に「ふたば救急総合医療支援センター」が設置されました。ふくしま国際医療科学センターは県民の健康の見守り、先進医学研究、高度医療の提供を推進し、ふたば救急総合医療支援センターは本学のフロントラインとして避難地域住民の医療ニーズに応じて行く責務を担っています。原発事故の教訓を生かして、本学の発展、そして福島復興創生に貢献すると共に、双葉地域の医療体制の再整備に尽力する所存です。よろしくお願いいたします。



理事（県民健康管理担当）・ 副学長就任のご挨拶

理事（県民健康管理担当）兼
副学長 **大平 弘正**

この度、県民健康管理担当理事を拝命しました。福島県から委託されている「県民健康調査」の円滑な実施と新たに組織された「健康増進センター」、「ふくしま子ども・女性医療支援センター」の担当理事として微力ながら尽力したいと考えております。

県民健康調査の目的は、大震災・原発事故後の県民の被ばく線量評価と健康状態の把握、さらには将来にわたり県民の健康の維持、増進を図ることです。外部被ばく線量を推計する基本調査と健康診査、甲状腺検査、こころの健康度・生活習慣に関する調査、妊産婦に関する調査の5つの調査が実施されています。調査内容の迅速な公表と県民へのわかり易い広報に努めていきたいと思っております。

健康増進センターでは、心筋梗塞・脳卒中の疾患登録と要因分析や県が構築を進めているデータベースを利用しシンクタンクの役割を担い、行政とともに健康増進の基本となる運動習慣の啓蒙活動を開始しております。また、ふくしま子ども・女性医療支援センターは、本県で女性が安心して育児と健康な一生を過ごせるための医療支援を目的に設立され、産婦人科・小児科医師のリクルートや人材育成に着手しております。

震災後5年を経過し、多くの方々のご支援により着実な進歩が達成されつつありますが、新たな課題も見えてきております。今後とも本学一丸となって改革に取り組んでいく所存ですのでよろしくお願いいたします。



研究・地域医療担当理事に就任して

理事（研究・地域医療担当）兼
副学長 **宇川 義一**

2016年4月から研究・地域医療担当理事に就任いたしました宇川義一です。就任当初の感想は、これは大変な仕事を引き受けてしまった。これほど多岐にわたる重要事項を担当する事が私にできるのか？ というものでした。

それから数ヶ月が経過しましたが、やはり大変だと言うのが現在の率直な感想ですが、同時に本学のこれからの為には、学内外の皆様のご協力を得、是非やり遂げなくてはならない仕事だと考えております。そこで皆様のご協力を仰ぐ上でも私の仕事の概略を述べさせていただきます。

地域医療担当としては、医師不足の本県において、いかに効果的に医師を派遣するかなどに腐心しております。本学の多彩な支援教員制度などを用いて限られた人材を如何に有効に運用し、本学として福島県の地域医療に貢献できるかをいつも考えています。福島県の医療の全体像をイメージする必要がある、日々、勉強になる事ばかりです。また、会津医療センターも担当しており、センターの病院経営を含め、その進むべき方向性についても日々色々と勉強しながら、検討しております。どちらも、今のところ私の勉強にはなっていますが、私が役立っているのかは解りません。

研究担当としての仕事は3つの柱があります。TRセンター、PET-MRIを持つ先端臨床研究センターの経営を含めた管理がその一つ目です。この分野は、多額の予算を国からいただいたプロジェクトであり、経営的にもここを安定化する必要があります。大きなプロジェクトを行っている醍醐味はありますが、常に成功しなかったらどうしようと言う不安と背中合わせです。竹之下センター長のようにとんと構えてはいられない性格の私としては、いつも心配ばかりしております。二つ目の柱は、臨床研究センターに代表される、厚生科研、臨床治験という事業です。国の方針が変わり、臨床治験を行う事は大学病院の重要な使命の一つと位置づけられ、経営的にも存続に関わる重大事となっています。この事実を深刻に職員一同が共有すべきと考えますが、多くの教授が以前の私のように実感していないのではないかと危惧しております。講座研究費により医局を何とか経営していける時代は終わりました。自分で予算を取ってきて、それにより講座を運営しないと発展しない時代になります。この事を充実させるプロジェクトを南川センター長中心に行っていますので、皆様是非、協力下さい。最後に科研費をはじめとする学問的な研究の充実が三つ目の柱です。これに関しては、理事として何ができるだろうかを考えています。大学として行う研究者への何らかの支援が必要と考えますが、私自身講座を運営するに当たり、研究成果の充実に必要なのは教授のリーダーシップが必須ではないかと痛感しております。われわれは教授になることが目的ではなく、本学のため何かをやる為の本学の教授になったはずです。特に自身を含めた医局員が日々の臨床業務に忙殺される臨床講座の教授陣も、研究面においても医局員のモチベーションを維持し指導していくことも我々の責務であると自戒を込めて痛感しております。その意気込みをもって是非、皆様研究・研究費獲得にもエフォートをさき、ご協力をお願いします。

このような事情ですので、私が理事として仕事を全うできているかをいつも自問自答の日々です。しかし、菊地理事長をはじめとした皆様のご指導のもと、何とかやり遂げる所存です。重ねて皆様のご協力をお願い申し上げます。



理事（教育担当）・ 副学長就任のご挨拶

理事（教育担当）兼
副学長 **橋本 康弘**

平成28年4月より、理事（教育担当）、副学長（学務担当）を拝命致しました。従って、既に就任から10ヶ月経過した後のご挨拶となります。

医学・看護学教育は大きな変革期にあります。例えば、医学部の臨床実習72週化は、臨床教育を充実させる観点からは好ましいものですが、医学教育システム全体の大幅な変更が必要となります。昨年は、この問題に対応すべく教務委員会（カリキュラム部会）の皆様にご多大なご協力をいただきました。また、長期間にわたる臨床教育を効率的に行うために、BSLマニュアルを作成し、平成29年4月よりこのマニュアルを用いた実習が予定されております。BSLを行う臨床講座には、より一層のご協力をお願いしたいと存じます。

また、看護師の特定医療行為は、臨床現場に大きな変革をもたらすと期待されております。この制度では、従来は医師のみが行っていた医療行為の一部を、特定の条件下に限定されますが、看護師が行うことができるようになります。従って、看護師による在宅看護等の守備範囲が大きく広がることになると考えられます。平成29年4月より、本学においても特定医療行為の研修が行われる予定です。

以上の例に加えて、医学・看護学領域の変革が数多く予定されております。これらの変革に対し、学内・学外の諸先生のご協力を得つつ、微力ながら副学長職を務めてまいりたいと存じます。今後ともよろしくご協力申し上げます。



就任あいさつ

理事（医療・臨床教育担当）兼
副学長兼附属病院長
齋藤 清

昨年4月、紺野慎一前病院長の後任として福島県立医科大学附属病院長に就任致しました。身に余る重責ですが、全力で取り組んでおります。

福島県立医科大学附属病院の目標は「誰からも選ばれる病院」です。皆様から選んでいただくためには、信頼に応える確かな医療と、気軽に相談いただける医療連携が必要です。幸い、ふくしまいのちと未来のメディカルセンター棟（みらい棟）が完成し引越しました。みらい棟には周産期、新生児、小児などの集中治療体制が整備され、

「安心して子どもを産み育てることができる医療」が実現します。高度救急救命センターもみらい棟に移動して充実し、もしもの時には災害や被ばくにも対応します。また、全国一のRI病棟も備えており、新たにRI内用療法が可能になります。更に、今年が高機能手術室が増築される予定です。ここには血管撮影装置を備えたハイブリット手術室、最新鋭のMRIを備えたMRI手術室、無菌手術室が整備されます。

医療連携の強化にも努めています。平日の事前予約受付時間を延長し、土曜日の事前予約受付も開設しました。また、入院患者支援センターも全診療科で稼働する予定です。これにより入院管理を一元化し、入院決定時からコーディネーター看護師が面談して入院治療や退院に向けた情報を得ることで入院退院をスムーズに行うことが可能となります。

私たちは、県民の皆様と共に大震災・原発事故を乗り越えて、希望と笑顔が溢れる健康日本一の「ふくしま」を目指しています。皆様のご支援とご鞭撻ご協力を、どうぞ宜しくお願いいたします。



就任のご挨拶

看護学部長
島山 とも子

平成28年4月1日付けを持ちまして、福島県立医科大学看護学部長に就任いたしました。私はこの大学に来て10年目になりますが、これまで一人（完全一人領域）で120コマの講義と45時間の実習を動かすのが精一杯で、准教授だったこともあり、この大学どころか学部の全体像もあまり分からないまま今日までやってきました。そんな私が学部長に就任することになり、私自身戸惑いましたが、周りの皆様には多大なるご迷惑とご心配をおかけしていることと思います。

おりしも来年度受審する大学認証評価や来年度から始まる看護師特定行為やさらに博士課程設置に向けての準備など日常業務以外に大きな企画が目白押しの状況です。

本学部の最も大きな課題は外に向かって開かれていないという点です。医学部と看護部との交流も不十分です。福島県に唯一の看護系大学であり、優秀な学生が入学してくることに甘んじることなく、教員は自らを律して真の看護者、教員、研究者としての自覚を持たなければならぬと思います。

学部の学生も修士課程の学生も「もう一度ここに戻ってきて学びたい」と思わせる学部にすることが一番だと考えます。そのためにどうあったら良いかを一人ひとりの教員

に考えてもらいたいと思います。私は30歳のころ師から教育の目指すところは「陶冶」であると学びました。それ以来、「教えることは学ぶこと」私自身が人間的に成長することこそ真の教育なのだと思いに自らの目標として生きてきました。

学生からここに入学してきたことを誇りに思ってもらえる看護学部にしていきたいと考えます。



就任のご挨拶

ふくしま子ども・女性医療支援
センター長 **水 沼 英 樹**

平成28年4月に新しく開設されました「ふくしま子ども・女性医療支援センター」のセンター長に就任致しました。出身は栃木県ですが、平成13年まで群馬大学勤務。平成28年の3月まで弘前大学医学部産婦人科講座を主催しておりました。専門は産婦人科一般、特に生殖医学、女性医学です。

福島県の周産期医療は産婦人科医、小児科医の汲々たる努力にも関わらず危機的な状況にあり、これを打破する事を目的に本センターは構想されました。当初は周産期医療支援に特化したセンターの設立を構想しておりましたが、この構想の過程において、少子化、高齢化社会というわが国の抱える現状から、女性の一生を通じての医療支援とその人材育成を行えるセンターとしてはどうかということになり、そして、現在の名称となった次第です。当センターのコンセプトも、「ふくしまの女性が安心して子どもを産み、育み、そして健康な一生を過ごせるための医療支援を行うこと」となりました。この目的達成のために、全国から優れた指導者を招請し、より高度な医療を展開し、魅力ある研修、指導体制を作り上げていくことを業務としています。現在、センターには3名の常勤医師と4名の非常勤医師が在籍していますが、産科婦人科学講座、小児科学講座と連携して、それぞれの講座の医療強化、さらには学生教育、医師教育などに携わっております。業務を通じて本学の発展は勿論の事、福島県の医療の向上に尽力致しますので、どうぞ宜しくご支援のほどお願い申し上げます。



挨拶

血液内科学講座
主任教授 **池 添 隆 之**

2016年5月に血液内科学講座主任教授を拝命いたしました。私は1993年に高知医科大学医学部（現・高知大学医学部）を卒業した後、同学の第三内科（現・血液・呼吸器内科）に入局し血液内科医としての第一歩を踏み出しました。1999年から2002年までロサンゼルスに留学した以外はずっと大学で勤務させて頂きました。高知県もご多分に漏れず、血液内科医は不足しているうえに県中心部に偏在していました。従って毎週1回、往復4時間かけて地域の私立病院に伺い、そこにその地域の血液がん患者さんを集約して抗がん剤治療を行ってました。高知県の地方住民は超高齢化に加え独居率が高いため、感染症などを併発しても、自力で病院に行くことができません。最寄りの診療所の先生にかかりつけ医になって頂き、治療後は感染症予防のためのG-CSF製剤の投与や、食欲が落ちた場合は脱水予防のための補液などをして頂きながら外来抗がん剤治療を行って来ました。高齢者は病院に入院するだけで筋力や認知機能が低下してしまいます。福島県においても、地域の血液がん患者さんが地元の病院で安心して外来化学療法を受けられる診療体制を早急に構築していきたいと思っております。地域の第一線で頑張っておられる先生方と、血液がんや抗がん剤に関する勉強会を開催するなどして両者の距離を縮めていきたいと考えております。ご協力のほど何卒宜しくお願い申し上げます。



主任教授就任ご挨拶

リウマチ膠原病内科学講座
主任教授 **右 田 清 志**

平成28年8月よりリウマチ膠原病内科学講座教授を拝命いたしました右田清志と申します。伝統あるリウマチ膠原病内科学講座を担当させて頂くにあたり、その責任の重さに身の引き締まる思いです。私は昭和58年に長崎大学医学部を卒業後、長瀧重信名誉教授が主宰されていた第一内科学教室に入局し、江口勝美名誉教授にリウマチ学の基礎と臨床について幅広くご指導頂きました。カナダ・トロント大学で免疫寛容に関する研究を行い、帰国後は長崎大学病院および国立病院機構長崎医療センターでリウマチ膠原病、炎症性疾患に関する診療、臨床研究に従事して来ました。

福島県のリウマチ膠原病の診療は第3代第二内科主任教授 粕川先生のご指導のもと多くの諸先輩方により第二内科の幅広い内科診療のなかで基礎が築かれ発展しました。この度、大平教授が率いる第二内科からリウマチ膠原病内科分野が内科の一分野として独立させていただくことになりましたが、これまでの第二内科の総合内科学講座の視点を忘れることなく、臨床、研究を推進していく所存です。現在のリウマチ膠原病分野は臨床免疫学の進歩と同時に、診断、治療が大きく変化しており、専門性の高い診療が重要となってきています。それと同時にリウマチ膠原病は全身性の疾患であり、総合診療力も要求されます。診療科の枠をこえた連携も重視し、地域の医療機関との連携を一層密にして、患者さん中心の医療を行い福島県のリウマチ医療の向上を目指していきたいと思っております。また大学として臨床医の立場から、リウマチ医療の診断、治療法の開発に取り組み、卓越した若手臨床医の育成に努めて参ります。私自身は、甚だ微力ではございますが、motivationの高い医局員と教室一丸となって、診療・研究の充実に向け、専心努力いたしますので今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



就任のご挨拶

糖尿病内分泌代謝内科学講座

主任教授 島袋 充生

2016年9月糖尿病内分泌代謝内科学講座に赴任してまいりました島袋充生と申します。

琉球大学医学部医学科を1987年卒業後、初期、後期研修では、母校および医局関連の研修病院で、糖尿病内分泌代謝内科、循環器内科、血液内科をはじめとして、広く内科全般の臨床を学ぶよう心がけてきました。琉球大学医学部第二内科医員、助教、講師、自治医科大学大学院非常勤講師（単年）、山口大学大学院非常勤講師（2002-2011）を経て、2011年から前任地の徳島大学大学院・医歯薬学研究部・心臓血管病態医学分野特任教授、徳島大学糖尿病臨床・研究開発センター病態・治療研究分野長（併任）をつとめてまいりました。

糖尿病内分泌代謝内科学は、代謝疾患である糖尿病、脂質異常症、肥満症・メタボリックシンドローム、高尿酸血症・痛風や、内分泌系疾患である視床下部・下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、神経内分泌腫瘍等を扱います。代謝あるいは内分泌関連マーカーの数値コントロールを行うのみではなく、血管機能、臓器予後、寿命延伸を考えた包括的診療体制を実現してまいりたいと思っております。診療対象が全身の血管や臓器にまたがることから、関連各科との連携

が大変重要です。当講座スタッフ10名、診療支援医師2名、大学院生2名、医療技師3名、医局秘書2名（2016年12月現在）とともに、関連各科のご協力を仰ぎながら頑張っております。今後とも何卒よろしくお願いたします。



主任教授就任ご挨拶

耳鼻咽喉科学講座

主任教授 室野 重之

2016（平成28）年7月1日付けで耳鼻咽喉科学講座教授を拝命致しました。本学の前身である福島県立女子医学専門学校創設時より72年の伝統ある講座を担当することに、あらためて身の引き締まる思いです。

耳鼻咽喉科学は、がん・機能外科・免疫アレルギーを担います。その歴史は、19世紀後半にヨーロッパにおいて、中耳炎に起因する頭蓋内合併症への対処として耳科学が、気道閉塞をきたす喉頭癌への対処として喉頭科学が、外科学より独立したことに由来します。耳科学は聴力改善手術や人工内耳手術へと発展し、今や機能外科を代表します。喉頭科学は音声や嚥下に対する機能外科として発展するとともに、頭頸部外科学へと発展してきました。さらに鼻科学や咽頭科学では難治化する一方のアレルギーや免疫も関わります。

頭頸部癌の治療では、他科との連携による拡大切除・再建手術のみならず、低侵襲化を目指す経口的切除術も積極的に進めていきます。標準化の一方で個別化も模索される、世界の流れにも対応していかなばなりません。

来福するまでの大半を石川県で過ごしました。優柔不断、消極的、おっとりしていると一般に評される県民性に、自身も矛盾しないと苦笑していますが、「県民のための全人的、統合的な医療の提供」「耳鼻咽喉科医療へ還元できる先端的な研究」「次世代の医療を担う後進の育成」を使命に、一地方大学として埋没することなく存在感を発揮していけるよう努めて参ります。皆さまには益々のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



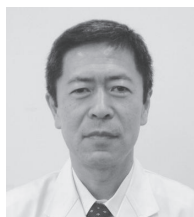
主任教授就任ご挨拶

放射線医学講座

主任教授 伊藤 浩

この度、平成28年5月1日付けで放射線医学講座の主任

教授に着任いたしました。私はいわき市の出身で平成元年に本学を卒業し、東北大学大学院で学位を取得しました。その後、スウェーデンのカロリンスカ研究所、秋田県立脳血管研究センター、東北大学加齢医学研究所を経て、平成17年より千葉市にある放射線医学総合研究所に勤務しておりましたが、平成26年に福島復興支援業務の一環として本学の先端臨床研究センターに赴任し、PET施設の建設や運営に従事して参りました。先端臨床研究センターは、国内でもあまり例がない診療・研究・創薬の3つを実現するPET施設で、この6月に開業しました。一方、分子イメージングなどの最先端の画像診断技術を生かしてより高い水準の画像診断を本学で実現するためには、日常の画像診断業務における教育や研究の充実が不可欠であり、放射線医学の学生教育および放射線科医の育成にも従事すべく、現職に就任いたしました。放射線医学講座は、放射線画像診断に関する診療・教育・研究を担当しますが、放射線画像診断には、単純X線写真からCTやMRI、血管造影、PETやSPECTなどの核医学が含まれ、これらすべての形態画像と機能画像を合わせた総合画像診断を展開して行く予定です。原発事故以来、福島県は放射線医学の先進地域を目指さなければならなくなりましたが、放射線医学講座は画像医学という放射線の医学利用分野で県民の健康増進に貢献して参ります。福島県の医学・医療の発展に向けて全力で取り組んで参りますので、よろしく願い申し上げます。



主任教授就任ご挨拶

リハビリテーション医学講座
主任教授 大井直往

このたびリハビリテーション医学講座の主任教授を拝命致しました。

リハビリテーション科は新しい診療科で、疾患というよりも障害を扱います。近代医療が“Adding years to life.”をめざしているのに対し、リハビリテーション科は“Adding life to years.”をめざします。すなわち病者・障害者の生き方を良くするのが目標です。また医学における関心が、一般の医療ではヒトから器官、臓器、細胞、染色体、遺伝子と小さい方に向かうのに対し、リハビリテーション科ではヒトから人、家族、地域社会に向かいます。このように役割が他の診療科とかなり違います。今後は障害をもって生活する障害者や高齢者が増えてきます。この方々が元気に生活できるよう、障害をコントロールしADLやQOLを維持させるのが私たちの仕事です。具体的には障害者が生活環境に適応できるよう、運動障害などに対する

訓練を行い、代償機能を獲得させ、環境や社会に手を加えます。福島県を、障害者・高齢者にとり日本一住みやすい所にするのが目標です。

学生や若い医師に対しては、疾患を治すことだけが医師の役割でなく、疾患を治せなくても生活や気持ちを支えることで、医師として貢献できることを教育したいと思えます。研究面では特に運動器を中心にして、骨・関節・筋肉・神経・脊髄・脳の疾患そのものをリハビリテーション(運動)で治す事を目指します。

私は未熟者ですが、皆様のお力をお貸しいただき、良心が体からあふれ出るような医療人を作ることに関わりたいです。



主任教授就任ご挨拶

先端核医学医療講座
主任教授 竹之下 誠 一

本講座は、放射性核種によるがん治療すなわち標的核医学治療とそのバイオマーカーとしてのポジトロンCT(PET)の開発研究を行っています。

本学は福島復興再生特別措置法ならびに文部科学省の「放射線医学・最先端診断に係る研究開発拠点の整備」事業等により、放射線医学の研究基盤整備を進めて参りました。平成28年度には、ふくしま国際医療センターを全面稼働し、先端臨床研究センターでは、2台のサイクロトロンとPET/CTならびにPET/MRIをはじめとする最先端の装置が稼働しています。サイクロトロンの1台は、30 MeVの最大加速エネルギーにより重陽子やヘリウム原子核も加速して、PETの診断薬に用いるポジトロン核種の他、 α 線あるいは β 線を放出する治療用核種を製造することも可能です。

これらは標的核医学治療の研究開発と臨床応用の推進拠点として整備したもので、すでに α 線核種であるアスタチン(^{211}At)の製造にも成功し、今後は抗体やペプチド等の標識合成と非臨床研究を進めます。臨床応用を目指して開発する放射性標識化合物はGMP基準で製造し、非臨床研究も同様の基準で運用する体制を敷いています。

産官学の連携で新規の臨床研究開発を行う中で、学内の研究者ならびに診療科と共同して本学から成果を発信して、復興の一翼を担うよう取り組む所存ですので、ご理解とご協力を賜りますようお願い致します。



室長就任ご挨拶

新医療系学部設置準備室

室長 矢吹省司

平成28年4月1日に新医療系学部設置準備室が発足しました。私はそこで室長として、平成33年4月のスタートに向けて準備を始めました。当初は、5年もあるのではのんびりと進めていけばいいのかなと思っていたのですが、建物や設備の設計、カリキュラム作成、教員確保などやるべきことがたくさんあり、それもあまり余裕がないことがわかってきました。視察に行ったり、教員候補の方々と会ったりと全国を走り回る生活になりました。何とか4つの学科（理学療法学科、作業療法学科、診療放射線学科、臨床検査学科）の核となる教員が確保できてきました。建物の基本設計も固まってきました。今までのところ計画よりはやや遅れ気味ながらも、ほぼ順調に進んできました。私の回りには有能な教職員が11人います。彼らと力を合わせてスタートまで邁進していきたいと思います。「今どこまで進んでいるんだ」という声をお聞きます。これからは情報発信も頻繁に行っていくようにいたします。

福島県立医科大学の一学部となりますので、大学全体のみなさまの協力なくしては始めるのは困難です。福島駅前（栄町）の一角にできる新学部で、福島県民の健康に寄与できる優秀な専門医療技術者を育てていけるように、皆様のご支援・ご協力を今後ともよろしくお願い致します。

諸規程改正

■ 平成28年2月から平成28年9月までの主な諸規程の制定、改正及び改廃関係

- 「福島県立医科大学動物実験規程」の一部改正について
(平成19年4月1日制定・平成28年2月1日施行)
管理者及び実験動物管理者に係る定義が改正されました。
- 「福島県立医科大学附属病院臨床腫瘍センター業務分掌内規」の一部改正について
(平成19年4月1日制定・平成28年2月12日施行)
組織改正に伴い、「部門等」、「緩和ケアセンターの組織」及び「院内がん登録室の業務」に係る規定が改正されました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年3月1日施行)
組織改正に伴い、「職の名称及び種類等」に痛み緩和医療センターが追加されました。
- 「福島県立医科大学附属病院規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年3月1日施行)
組織改正に伴い、中央診療施設に痛み緩和医療センターが追加されました。
- 「福島県立医科大学附属病院診療録管理要綱」の一部改正について
(平成23年1月1日制定・平成28年3月1日施行)
平成28年度診療報酬改定に伴い、「診療録の記載及び作成」に係る規定が追加されました。
- 「福島県立医科大学大学院医学研究科運営検討委員会規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年3月4日施行)
委員会の構成員が改正されました。
- 「福島県立医科大学職員の定年に関する規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年3月11日施行)
災害・被ばく医療科学共同専攻（修士課程）の設置に伴い、定年に係る附則が追加されました。
- 「福島県立医科大学職員給与と規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年3月18日施行)
「職務の級」の記述内容及び通勤手当の手当額が改正されました。
- 「福島県立医科大学准職員及び非常勤職員給与と規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年3月18日施行)
通勤手当の手当額が改正されました。
- 「福島県立医科大学医療人育成・支援センター規程」の一部改正について
(平成20年3月24日制定・平成28年3月18日施行)
「部門」に係る規定に「看護学教育研修部門」及び「災害医療総合学習センター」が追加されました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学役員報酬規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年3月30日施行)
県の特任職の期末手当の引き上げにより、本法人役員も同様に引き上げることとなりました。
- 「福島県県民健康調査「健康調査」実施要綱」の制定について
(平成28年3月31日制定・平成28年3月31日施行)
福島県県民健康調査「健康調査」の必要な事項が定められるとともに、本実施要綱第5条に定める健康診査の実施にあたり必要な事項が定められました。

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○「福島県立医科大学大学院学則」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
大学院看護学研究科の授業科目が改正されました。 ○「福島県立医科大学医学部履修規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
卒業認定及びカリキュラムの改正等に伴い、「卒業認定」に係る規定及び別表が改正されました。 ○「福島県立医科大学臨床研修医就業規則」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
給与に夜勤手当が追加されました。 ○「福島県立医科大学託児所運営要綱」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
託児所「すぎのこ園」の定員増及び運営委員会の委員に男女共同参画室の室員が加わることに伴い、「保育児の年齢及び定員」及び「運営委員会」に係る規定が改正されました。 ○「福島県立医科大学附属病院の副病院長に関する規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
副病院長の職務に関することが追加されました。 ○「福島県立医科大学放射性薬剤委員会規程」の制定について
(平成28年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
放射性薬剤のうち、本学において臨床研究に初めて使用する薬剤の品質と安全性の審査に関して必要な事項が定められました。 ○「公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
「医療研究推進センター」が新設されたこと等、平成28年度4月からの組織改正により規程が改正されました。 ○「福島県立医科大学ふくしま国際医療センター先端臨床研究センター規程」の制定について
(平成28年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
ふくしま国際医療センター先端臨床研究センターに関して必要な事項が定められました。 ○「公立大学法人福島県立医科大学企画広報戦略本部要綱」の一部改正について
(平成26年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
組織及び運営規程の改正に伴い、「部会の設置」等が削除される等の要綱の改正がありました。 ○「公立大学法人福島県立医科大学地域医療支援本部要綱」の一部改正について
(平成24年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
担当理事の名称変更により要綱が改正されました。 | <ul style="list-style-type: none"> ○「公立大学法人福島県立医科大学国際交流室要綱」の制定について
(平成28年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
国際交流室に関して必要な事項が定められました。 ○「公立大学法人福島県立医科大学職員給与規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
特別調整額を受ける職員の職について規程が改正されました。 ○「福島県立医科大学附属病院院内急変システム(RRS)運営委員会内規」の一部改正について
(平成27年2月1日制定・平成28年4月1日施行)
委員会の構成員に、「その他委員長が必要と認める者」が追加されました。 ○「県外における福島県「県民健康調査」甲状腺検査交付金交付要綱」の一部改正について
(平成24年5月22日制定・平成28年4月1日施行)
交付要綱第2条第3項に定める甲状腺検査の交付金額が改正されました。 ○「県内における福島県「県民健康調査」甲状腺検査交付金交付要綱」の一部改正について
(平成25年6月24日制定・平成28年4月1日施行)
交付要綱第2条第3項に定める甲状腺検査の交付金額が改正されました。 ○「公立大学法人福島県立医科大学ふくしま子ども・女性医療支援センター要綱」の制定について
(平成28年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
ふくしま子ども・女性医療支援センターに関して必要な事項が定められました。 ○「公立大学法人福島県立医科大学経理細則」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
組織及び運営規程の一部改正に伴い課長名が変更となり、規程が改正されました。 ○「公立大学法人福島県立医科大学財務会計事務の委任に関する要綱」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
組織及び運営規程の一部改正に伴う組織名の改正により、規程が改正されました。 ○「福島県立医科大学附属病院臓器移植適応評価委員会設置要綱」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
委員会の目的に「植込型補助人工心臓装着」の適応評価が追加されました。
心臓移植の委員について、施術に関係する循環器内科部長、心臓血管外科部長を陪席とすることが追加されるとともに、植込型補助人工心臓装着の陪席者が追加されました。 |
|--|--|

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○「公立大学法人福島県立医科大学附属病院医療用機器整備審議会設置要綱」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
副病院長の7名体制から5名体制への変更に伴い、審議会の構成員が改正されました。 ○「公立大学法人福島県立医科大学職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
検査部の勤務時間及び休憩時間についての勤務時間等の特例が改定されました。 ○「福島県立医科大学附属病院総合医療情報システム運用管理内規」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
別表に定める利用者の資格区分に事務職員Ⅲが追加されました。 ○「福島県立医科大学医療情報システム管理委員会設置要綱」の一部改正について
(平成21年8月20日制定・平成28年4月1日施行)
副病院長(経営担当)が廃止されることにより、組織等から削除されました。 ○「公立大学法人福島県立医科大学広報コミュニケーション室要綱」の制定について
(平成28年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
広報コミュニケーション室に関して必要な事項が定められました。 ○「福島県立医科大学附属病院治験審査委員会規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
平成28年度4月1日付けの組織改編に伴い、名称が「治験センター」から「臨床研究センター」に変更されました。 ○「福島県立医科大学附属病院臨床研究センター規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
平成28年度4月1日付けの組織改編に伴い、規程が改正されました。 ○「福島県立医科大学部局長等選考規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
組織変更及び理事の担当変更に伴い、規程が改正されました。 ○「ふくしま国際医療科学センター医療-産業トランスレーショナルリサーチセンター動物実験施設管理規程」の制定について
(平成28年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
ふくしま国際医療科学センター医療-産業トランスレーショナルリサーチセンターにおける動物実験施設の管理運営に関して、必要な事項が定められました。 | <ul style="list-style-type: none"> ○「公立大学法人福島県立医科大学人事管理委員会規程」の一部改正について
(平成19年7月2日制定・平成28年4月1日施行)
理事の担当変更に伴い、規程が改正されました。 ○「公立大学法人福島県立医科大学における公益通報に関する規程」の一部改正について
(平成19年11月2日制定・平成28年4月1日施行)
理事の担当変更により、公益通報者保護責任者に企画・管理運営担当理事を変更しました。 ○「公立大学法人福島県立医科大学職員に係る管理職員等の範囲を定める規程」の一部改正について
(平成20年3月19日制定・平成28年4月1日施行)
平成28年度4月1日付けの組織改編に伴い、別表が改正されました。 ○「女性医師の産休等に伴う定数配分先選定委員会規程」の一部改正について
(平成23年10月1日制定・平成28年4月1日施行)
理事の担当変更に伴い、委員会の組織について改正されました。 ○「公立大学法人福島県立医科大学職員懲戒要綱」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
平成28年度4月1日付けの組織改編に伴い、審査会の構成員が変更されました。 ○「公立大学法人福島県立医科大学におけるコンプライアンスの推進に関する規程」の一部改正について
(平成23年10月18日制定・平成28年4月1日施行)
理事の担当変更に伴い、委員会の構成員が変更されました。 ○「公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
新たに遺伝診療部が附属病院の内部組織に追加されました。 ○「公立大学法人福島県立医科大学知的財産に対する収入細則」の制定について
(平成28年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
知的財産の維持管理を目的として、収入に関する必要な事項が定められました。 ○「公立大学法人福島県立医科大学危機管理室要綱」の一部改正について
(平成18年4月10日制定・平成28年4月1日施行)
理事の担当変更に伴い、規程が改正されました。 ○「公立大学法人福島県立医科大学先進的臨床研究支援事業に関する要綱」の一部改正について
(平成24年2月14日制定・平成28年4月1日施行)
平成28年度4月1日付けの組織改編に伴い、委員会の構成員の名称等が変更されました。 |
|---|---|

- | | |
|---|--|
| <p>○「公立大学法人福島県立医科大学が保有する公文書の開示等に関する規程」の一部改正について
(平成24年12月1日制定・平成28年4月1日施行)
行政不服審査法の改正に伴い、不服申立てが審査請求に1本化されたことから所要の改正を行いました。</p> <p>○「公立大学法人福島県立医科大学が取り扱う個人情報の保護等に関する規程」の一部改正について
(平成24年12月1日制定・平成28年4月1日施行)
行政不服審査法の改正に伴い、不服申立てが審査請求に1本化されたことから所要の改正を行いました。</p> <p>○「福島県立医科大学大学院看護学研究科履修規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
大学院看護学研究科のカリキュラム改正に伴い、授業科目の追加・修正・削除等が行われました。</p> <p>○「公立大学法人福島県立医科大学情報公開事務取扱要綱」の一部改正について
(平成24年12月1日制定・平成28年4月1日施行)
行政不服審査法の改正に伴い、不服申立てが審査請求に1本化されたことから所要の改正を行いました。</p> <p>○「公立大学法人福島県立医科大学個人情報保護事務取扱要綱」の一部改正について
(平成24年12月1日制定・平成28年4月1日施行)
行政不服審査法の改正に伴い、不服申立てが審査請求に1本化されたことから所要の改正を行いました。</p> <p>○「公立大学法人福島県立医科大学研究支援事業実施要綱」の一部改正について
(平成23年6月1日制定・平成28年4月1日施行)
平成28年度4月1日付けの組織改編に伴い、名称及び担当役員が変更されました。</p> <p>○「福島県立医科大学附属病院医薬品等臨床試験実施細則」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
平成28年度4月1日付けの組織改編に伴い、治験に係る事務及び記録等の保存に係る細則が変更されました。</p> <p>○「福島県立医科大学附属病院治験実施者に関する表彰要綱」の一部改正について
(平成20年1月30日制定・平成28年4月1日施行)
平成28年度4月1日付けの組織改編に伴い、候補先の選出条件の内、「治験センター」が「臨床研究センター」に変更されました。</p> <p>○「福島県立医科大学附属病院治験実施者に関する表彰に関する内規」の一部改正について
(平成26年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
平成28年度4月1日付けの組織改編に伴い、推薦等の内、「治験センター所長」が「臨床研究センター長」に変更されました。</p> | <p>○「公立大学法人福島県立医科大学文書管理規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
平成28年度4月1日付けの組織改編に伴い、文書記号や決裁区分等の規程が改正されました。</p> <p>○「公立大学法人福島県立医科大学事務決裁規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
平成28年度4月1日付けの組織改編に伴い、別表の専決事項や代決が改正されました。</p> <p>○「公立大学法人福島県立医科大学医療研究推進本部要綱」の制定について
(平成28年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
医療研究推進本部に関し、必要な事項が定められました。</p> <p>○「公立大学法人福島県立医科大学医療研究推進センター規程」の制定について
(平成28年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
医療研究推進センターに関し、必要な事項が定められました。</p> <p>○「公立大学法人福島県立医科大学医療研究推進センター部門運営要綱」の制定について
(平成28年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
総合支援・研究基盤部門及び臨床研究・治験部門の組織及び運営に関し必要な事項が定められました。</p> <p>○「福島県立医科大学英文校正サービス利用要綱」の一部改正について
(平成23年10月1日制定・平成28年4月1日施行)
その他の財源での料金の負担を希望する場合に、事務局の事前確認が必要となりました。平成28年度4月1日付けの組織改編に伴い、研究推進課から医療研究推進課に名称が変更になりました。</p> <p>○「公立大学法人福島県立医科大学会津医療センター附属病院医薬品等試験実施細則」の一部改正について
(平成25年9月1日制定・平成28年4月1日施行)
福島県立医科大学附属病院臨床研究センターへの名称変更に伴い、所要の改正を行いました。</p> <p>○「公立大学法人福島県立医科大学職員服務規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
平成28年度4月1日付けの組織改編に伴い、所属長の定義が変更されました。</p> <p>○「福島県立医科大学ふくしま国際医療科学センターに関する講座の主任適任者選考規程」の一部改正について
(平成27年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
平成28年度4月1日付けの組織改編に伴い、委員会の構成員の名称が変更されました。</p> |
|---|--|

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○「福島県立医科大学ふくしま国際医療科学センター教員適任者資格審査委員会規程」の一部改正について
(平成27年4月1日制定・平成28年4月1日施行)
平成28年度4月1日付けの組織改編に伴い、委員会の構成員の名称が変更されました。 ○「公立大学法人福島県立医科大学寄附講座に関する規程」の一部改正について
(平成20年10月1日制定・平成28年4月1日施行)
平成28年度4月1日付けの組織改編に伴い、名称が研究推進戦略室から、医療研究推進本部に変更されました。 ○「公立大学法人福島県立医科大学職員研修規程」の一部改正について
(平成20年3月31日制定・平成28年4月1日施行)
能力開発研修に会計基礎研修が追加されました。 ○「福島県「県民健康調査」データ利用・解析、結果発表等に関する審査要綱」の一部改正について
(平成27年1月1日制定・平成28年4月7日施行)
県民健康調査データ管理システムの本格稼働に伴い、必要な事項の追加や改正が行われました。 ○「福島県立医科大学医学部教務委員会規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年4月25日施行)
学生部長の事務決裁規程に定める特定専決事項の変更等に伴い、所掌事項及び部会に関する規程が改正されました。 ○「福島県立医科大学教員の採用及び昇任選考規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年5月1日施行)
教歴又は研究の期間が規程に定める期間に満たなくても、能力を有すると判断できる場合には選考できるようになりました。 ○「公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年5月1日施行)
新たに遺伝診療部が附属病院の内部組織に追加されました。 ○「福島県立医科大学附属病院規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年5月1日施行)
附属病院の中央診療施設に「遺伝診療部」が設置されました。 ○「公立大学法人福島県立医科大学医師臨床研修費補助金交付金要綱」の一部改正について
(平成19年3月7日制定・平成28年5月11日施行)
交付額の算定方法の補助基準額と補助対象経費が変更になりました。 ○「福島県立医科大学附属病院管理規程」の制定について
(平成28年5月24日制定・平成28年5月24日施行)
附属病院の建物及び土地並びにその付属設備の管理に必要な事項が定められました。 | <ul style="list-style-type: none"> ○「福島県立医科大学大学院看護学研究科委員会規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年5月30日施行)
研究科長を補佐する副研究科長が新たに追加されました。 ○「福島県立医科大学附属学術情報センター図書館・展示館利用細則」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年6月1日施行)
時間外利用時の利用範囲が変更されました。 ○「福島県県民健康調査「健康診査」小児健康診査交付金交付要綱」の一部改正について
(平成23年12月8日制定・平成28年6月23日施行)
健康診査への名称変更や交付金交付申請書の手続等が変更されました。 ○「福島県立医科大学学位規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年7月1日施行)
災害・被ばく医療科学共同専攻の設置に伴い、学位の名称、様式が変更されました。 ○「福島県立医科大学看護学部教務委員会規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年7月1日施行)
学生生活小委員会を看護学部学生生活委員会として独立設置することに伴い、規程が改正されました。 ○「福島県立医科大学看護学部学生生活委員会規程」の制定について
(平成28年6月29日制定・平成28年7月1日施行)
看護学部学生生活委員会に関し、必要な事項が定められました。 ○「福島県立医科大学動物実験委員会規程」の一部改正について
(平成19年10月1日制定・平成28年7月1日施行)
動物実験計画書の実験実施期間を明確にするため、規程の変更がありました。 ○「福島県立医科大学附属病院保険委員設置要綱」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年7月1日施行)
委員会の委員に副委員長を2名置くことになりました。DPC/PDPS コーディング連絡会議の設置が追加されました。 ○「福島県立医科大学医学部教務委員会規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年7月1日施行)
学生の賞罰に関する手続きの整理に伴い、規程が改正されました。 ○「福島県立医科大学学生の懲戒処分に関する規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年7月1日施行)
学生部学生生活委員会の設置に伴い、軽微な懲戒処分の規程が変更されました。 |
|---|--|

- | | |
|---|--|
| <p>○「公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年7月1日施行)
内部組織の大学医学部内科学部門の講座名称が変更されました。</p> <p>○「公立大学法人福島県立医科大学諸料金規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年7月1日施行)
別表第2に附属病院研修医宿舍入居料が追加されました。</p> <p>○「公立大学法人福島県立医科大学ストレスチェック制度実施規程」の制定について
(平成28年7月8日制定・平成28年7月8日施行)
ストレスチェック制度を実施するに当たり、必要な事項が定められました。</p> <p>○「公立大学法人福島県立医科大学会津医療センターストレスチェック制度実施規程」の制定について
(平成28年7月8日制定・平成28年7月8日施行)
労働安全衛生法第66号の10に規定するストレスチェック制度を実施するに当たり、実施方法等が定められました。</p> <p>○「公立大学法人福島県立医科大学教員の人事等に関する特例規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年7月20日施行)
採用及び昇任の方法に新医療系学部設置準備室が追加されました。</p> <p>○「福島県立医科大学新医療系学部設置準備室教員の採用及び昇任選考規程」の制定について
(平成28年7月20日制定・平成28年7月20日施行)
新医療系学部設置準備室教員等の採用及び昇任選考に関し、必要な事項が定められました。</p> <p>○「福島県立医科大学新医療系学部設置準備室教員選考委員会規程」の制定について
(平成28年7月20日制定・平成28年7月20日施行)
新医療系学部設置準備室教員の採用及び昇任に関する選考委員会の設置等について、必要な事項が定められました。</p> <p>○「公立大学法人福島県立医科大学会津医療センター附属病院栄養管理委員会要綱」の一部改正について
(平成25年5月11日制定・平成28年7月28日施行)
委員会の構成委員に、給食管理委託会社 受託責任者 兼栄養士が一人追加され、本学の改正がありました。</p> <p>○「福島県立医科大学新医療系学部設置準備委員会設置要綱」の制定について
(平成28年7月28日制定・平成28年7月28日施行)
新医療系学部設置準備委員会について必要な事項が定められました。</p> | <p>○「福島県立医科大学附属病院褥瘡対策委員会設置要綱」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年8月1日施行)
対策チームの病院における患者ごとの褥瘡対策に関する計画書の名称が治療計画書に変更されました。</p> <p>○「福島県立医科大学倫理委員会規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年8月1日施行)
委員会の構成が第1倫理委員会及び第2倫理委員会構成されることに伴い、所要の改正を行いました。</p> <p>○「福島県立医科大学倫理委員会専門部会運営要綱」の一部改正について
(平成26年8月1日制定・平成28年8月1日施行)
ヒト幹細胞指針が廃止されたことに伴い、審査対象及び組織員が改正されました。</p> <p>○「福島県立医科大学看護学部教務委員会規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年8月1日施行)
学生生活小委員会を看護学部学生生活委員会として独立設置することに伴い、規程が改正されました。</p> <p>○「福島県立医科大学看護学部学生生活委員会規程」の制定について
(平成28年4月1日制定・平成28年8月1日施行)
看護学部学生生活委員会に関し、必要な事項が定められました。</p> <p>○「福島県立医科大学大学院看護学研究科修士課程を担当する教員の資格に関する内規」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年8月1日施行)
共通選択専門科目の担当者及び単位認定者の資格が変更となりました。</p> <p>○「公立大学法人福島県立医科大学組織及び運営規程」の一部改正について
(平成18年4月1日制定・平成28年8月1日施行)
内部組織の大学医学部内科学部門の講座名称が変更されました。</p> <p>○「福島県立医科大学放射性薬剤委員会規程」の一部改正について
(平成28年4月1日制定・平成28年8月1日施行)
委員会の議事について、出席した委員の過半数から委員全員の合意によるもの等に変更されました。</p> <p>○「福島県立医科大学模擬患者の会運営要綱」の制定について
(平成28年8月16日制定・平成28年9月1日施行)
福島県立医科大学模擬患者の会の運営に関し、必要な事項が定められました。</p> <p>○「福島県立医科大学クリニカル・スキルラボ管理運営要綱」の一部改正について
(平成21年4月27日制定・平成28年9月1日施行)
管理運営のための管理者がセンター医学教育部門長に変更になりました。</p> |
|---|--|

- 「福島県立医科大学附属病院臓器移植関係委員会設置要綱」の一部改正について
(平成18年 4月 1日制定・平成28年 9月 1日施行)
臓器摘出の可否について審議する場合、肝胆膵・移植外科部長及び泌尿器・副腎内分泌外科部長については陪席とする等が追加されました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学医療機関等の医師確保に対する支援に関する要綱」の一部改正について
(平成18年 4月26日制定・平成28年 9月 1日施行)
組織改正に伴い、講座等の定義が改正されました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学寄附講座アドバイザー設置要綱」の一部改正について
(平成24年 9月26日制定・平成28年 9月 1日施行)
寄附講座アドバイザーから運営管理に関する助言及び指導等を得るため、報告書の内に、「寄附講座 診療実績報告書」が追加されました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学医学部附属死因究明センター管理運営規程」の制定について
(平成28年 9月 1日制定・平成28年 9月 1日施行)
医学部附属死因究明センターが設置されたことに伴い、管理運営に関し必要な事項が定められました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学医学部附属死因究明センター放射線障害予防細則」の制定について
(平成28年 9月 1日制定・平成28年 9月 1日施行)
医学部附属死因究明センターが設置されたことに伴い、放射線発生装置の使用及び管理に関する事項が定められました。
- 「福島県立医科大学附属病院医療安全管理部業務規程」の一部改正について
(平成18年 4月 1日制定・平成28年 9月30日施行)
特定機能病院の認定要件見直しに伴い、インフォームドコンセントについて必要な事項が追加されました。
- 「福島県立医科大学附属病院医薬品安全使用部会内規」の一部改正について
(平成20年 6月 5日制定・平成28年 9月30日施行)
医療法施行規則の一部改正に伴い、医薬品安全管理担当者を追加する等、所要の改正を行いました。
- 「福島県立医科大学附属病院医療事故防止対策委員会設置要綱」の一部改正について
(平成18年 4月 1日制定・平成28年 9月30日施行)
医療法施行規則の一部改正に伴い、構成員に医療機器安全管理責任者を追加する等、所要の改正を行いました。
- 「公立大学法人福島県立医科大学附属病院における内部通報に関する規程」の制定について
(平成28年 9月30日制定・平成28年 9月30日施行)
医療法施行規則に基づき、本院に対する職員等からの医療安全の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けた場合の適正な処理の仕組みが定められました。

役員会・経営審議会・ 教育研究審議会・医学部 教授会・看護学部教授会

■ 役員会

【平成28年 3月30日 第12回役員会】

○寄附講座の設置

次のとおり、新たな寄附講座を設置することが承認された。

(名称)

先端核医学医療講座

(設置期間)

平成28年 4月～平成31年 3月 (3年間)

(研究テーマ)

ラジオアイソトープ内用療法の診療と研究を中核とする核医学の基礎研究及び治療・臨床への応用

○寄附講座の変更

次のとおり、寄附講座の設置期間の変更について承認された。

(名称)

災害医療支援講座

(設置期間)

平成24年 4月～平成29年 3月 (5年間)

【平成28年 4月 1日 第 1 回役員会】

○部局長等の選考について

次のとおり、部局長等を選考したことについて報告が行われた。

(総括副学長・副学長就任者)

総括副学長

阿部 正文

副学長(総務担当)

大平 弘正

副学長(学務担当)

橋本 康弘

(改称)副学長(研究・地域医療担当)

宇川 義一

副学長(臨床教育担当)

齋藤 清

副学長(業務担当)

山下 俊一

副学長(業務担当)

神谷 研二

(改称)副学長(医師確保・健康長寿担当)

福原 俊一

副学長(業務担当)

吉村 泰典

(任 期)

平成28年 4月 1日から平成30年 3月31日まで、ただし、副学長(総務担当、学務担当、研究・地域医療担当、臨床教育担当)については、役員の任期中。

【平成28年4月27日 第2回役員会】

○寄附講座の設置

次のとおり、新たな寄附講座を設置することが承認された。

(名称)

腸内環境病態医療学講座

(設置期間)

平成28年5月～平成33年4月（5年間）

(研究テーマ)

腸内環境から、がん・生活習慣病等の疾病の病態解析と予防法に関する包括的研究を行い、地域医療支援活動を行う等。

■ 経営審議会

【平成28年3月7日 平成27年度第4回経営審議会】

○平成28年度法人当初予算について

平成28年度法人当初予算案について諮られ、原案のとおり承認された。

○公立大学法人福島県立医科大学諸料金規程の一部改正について

「初診及び再診に係る加算料」に関し、健康保険法等の改正により、特定機能病院について、「紹介状を持たない患者」に対する初診料加算が義務化されることに伴う料金の改正について諮られ、原案のとおり承認された。

○役員報酬規程の一部改正について

役員報酬に関し、県の特別職の給与改定に準じて改正することについて諮られ、原案のとおり承認された。

【平成28年9月5日 平成28年度第2回経営審議会】

○公立大学法人福島県立医科大学諸料金規程の一部改正について

ふくしま国際医療科学センター、みらい棟の特別室MS、MA、MBの加算料の新設及び看護師の特定行為研修に係る受講料の新設に伴う改正について諮られ、原案のとおり承認された。

■ 教育研究審議会

【平成28年3月7日 平成27年度第4回教育研究審議会】

○名誉教授称号の授与について

本年3月31日付けで退任される竹之下誠一理事、木村純子教授、後藤満一教授、真壁玲子教授に対し、名誉教授称号の授与が決定された。

○平成28年度計画（案）について

平成28年度計画（案）が諮られ、原案のとおり承認された。

○福島県立医科大学大学院学則の一部改正について

大学院看護学研究科の授業科目の追加に伴う、大学院

学則の一部改正を行うことについて諮られ、原案のとおり承認された。

【平成28年6月6日 平成28年度第1回教育研究審議会】

○公立大学法人福島県立医科大学理事長選考会議委員の選出について

次のとおり選出された。

阿部 正文 委員（総括副学長）

錫谷 達夫 委員（医学部長）

畠山とも子 委員（看護学部長）

また、補充委員として、和田郁夫委員（附属学術情報センター長）が指名された。

○福島県立医科大学大学院学則の一部改正について

大学院看護学研究科の授業科目の変更及び追加に伴う、大学院学則の一部改正を行うことについて諮られ、原案のとおり承認された。

【平成28年9月5日 平成28年度第2回教育研究審議会】

○福島県立医科大学大学院学則の一部改正について

大学院看護学研究科の授業科目の整理に伴う、大学院学則の一部改正を行うことについて諮られ、原案のとおり承認された。

■ 医学部教授会

【平成28年3月16日 定例教授会】

○附属学術情報センター運営委員会委員の推薦について

以下の6名が推薦された。

亀岡 弥生 教授（薬理学講座）

大平 哲也 教授（疫学講座）

鈴木 義行 教授（放射線腫瘍学講座）

池田 和彦 准教授（輸血・移植免疫学講座）

志村 清仁 教授（自然科学講座）

末永 恵子 講師（人間科学講座）

○平成28年度医学部教務委員会委員の選任について

次のとおり選出された。

永福 智志 教授（システム神経科学講座）

関根 英治 教授（免疫学講座）

黒田 直人 教授（法医学講座）

鈴木 弘行 教授（呼吸器外科学講座）

横山 浩之 教授

（ふくしま子ども・女性医療支援センター）

長谷川有史 教授（放射線災害医療学講座）

橋本 優子 教授（病理病態診断学講座）

大平 弘正 教授（消化器内科学講座）

藤野美都子 教授（人間科学講座）

以上9名の任期は、平成28年4月1日から2年間

竹石 恭知 教授（循環器内科学講座）

小島 祥敬 教授（泌尿器科学講座）

志村 清仁 教授 (自然科学講座)

以上3名の任期は、平成28年4月1日から1年間

○平成28年度医学部入試委員会委員の選任について

次のとおり選出された。

竹石 恭知 教授 (循環器内科学講座)

※健康診断担当

挾間 章博 教授 (細胞統合生理学講座)

永福 智志 教授 (システム神経科学講座)

大平 哲也 教授 (疫学講座)

大竹 徹 教授 (乳腺外科学講座)

志村 浩己 教授 (臨床検査医学講座)

志村 清仁 教授 (自然科学講座)

松岡 有樹 教授 (自然科学講座)

和田 郁夫 教授 (細胞科学研究部門)

以上9名の任期は、平成28年4月1日から2年間

関根 英治 教授 (免疫学講座)

細矢 光亮 教授 (小児科学講座)

山本 俊幸 教授 (皮膚科学講座)

小島 祥敬 教授 (泌尿器学講座)

鈴木 義行 教授 (放射線腫瘍学講座)

岡田 達也 教授 (自然科学講座)

以上6名の任期は、平成28年4月1日から1年間

【平成28年7月20日 定例教授会】

○倫理委員会委員の推薦について

次のとおり選出された。

第1 倫理委員会

- 生命科学・社会医学系

大平 哲也 教授 (疫学講座)

黒田 直人 教授 (法医学講座)

- 臨床医学系

山本 俊幸 教授 (皮膚科学講座)

細矢 光亮 教授 (小児科学講座)

第2 倫理委員会

- 生命科学・社会医学系

和田 郁夫 教授 (細胞科学研究部門)

黒田 直人 教授 (法医学講座)

- 臨床医学系

山本 俊幸 教授 (皮膚科学講座)

小島 祥敬 教授 (泌尿器科学講座)

○倫理委員会専門部会委員の推薦について

次のとおり選出された。

- 分子生物学、細胞生物学又は生物学を専門とする講座等の教授

千葉 英樹 教授 (基礎病理学講座)

和田 郁夫 教授 (細胞科学研究部門)

- 遺伝子治療臨床研究が対象とする疾患に係る臨床医

小川 一英 教授 (新医療系学部設置準備室)

- 生殖医学を専門とする講座等の教授

藤森 敬也 教授 (産科婦人科学講座)

小島 祥敬 教授 (泌尿器科学講座)

【平成28年9月21日 定例教授会】

○倫理委員会専門部会委員の推薦について

次のとおり選出された。

- 生命倫理に関する識見を有する者

藤野美都子 教授 (人間科学講座)

○研究用微生物安全管理委員会委員の推薦について

次のとおり選出された。

- 予防医学等に関係する者

熊谷 智広 講師 (衛生学・予防医学講座)

■看護学部教授会

【平成28年3月15日 定例教授会】

○附属学術情報センター運営委員会委員の推薦について

次のとおり推薦され、その後、学長から任命された。

本多たかし 教授 (生命科学部門)

森 努 准教授 (生命科学部門)

佐藤 利憲 講師 (家族看護学部門)

川島 理恵 講師 (基礎看護学部門)

なお、任期は平成30年3月31日までとされた。

【平成28年5月17日 定例教授会】

○看護学部教務委員会委員について

大川貴子教授が看護学部教務委員に追加で任命された。

なお、任期は平成30年3月31日までとされた。

○看護学部学術委員会及び広報委員会の委員について

次のとおり選任された。

看護学部学術委員会

委員長 本多たかし 教授 (生命科学部門)

副委員長 大川 貴子 准教授 (家族看護学部門)

立柳 聡 准教授 (総合科学部門)

森 努 准教授 (生命科学部門)

堀内 輝子 講師 (基礎看護学部門)

丸山 育子 講師 (基礎看護学部門)

井上 水絵 講師 (療養支援看護学部門)

大崎 瑞恵 講師 (療養支援看護学部門)

佐藤 郁美 助教 (療養支援看護学部門)

菅野富美子 助手 (療養支援看護学部門)

佐藤 利憲 講師 (家族看護学部門)

鈴木 学爾 助教 (家族看護学部門)

田村 達弥 助教 (家族看護学部門)

鈴木 良香 助教 (地域・在宅看護学部門)

鈴木 妙子 助教 (母性看護学・助産学部門)

看護学部広報委員会

委員長 本多たかし 教授 (生命科学部門)

田中 啓子 助教授（基礎看護学部門）
 齋藤 史子 助教授（療養支援看護学部門）
 佐藤 郁美 助教授（療養支援看護学部門）
 高田 香苗 助教授（家族看護学部門）
 田村 達弥 助教授（家族看護学部門）
 山崎久美子 助手（基礎看護学部門）
 福島 瞳 助手（療養支援看護学部門）
 森 美由紀 助手（母性看護学・助産学部門）

なお、任期は平成30年の3月31日までとされた。

雑 報

■ 今年度設置の寄附講座について

本学では、平成28年4月1日以降、下記の寄附講座を開設しました。

◆名 称

先端核医学医療講座

○設置期間

平成28年4月1日～平成31年3月31日

○寄附者

ゼノアックリソース株式会社

○設置場所

福島県福島市光が丘1番地
 （公立大学法人福島県立医科大学内）

○研究体制

講座主任・教授 竹之下誠一
 教 授 織内 昇

○研究テーマ

ラジオアイソトープ内用療法の診療と研究を中核とする核医学の基礎研究及び治療・臨床への応用

◆名 称

腸内環境病態医療学講座

○設置期間

平成28年5月1日～平成33年4月30日

○寄附者

社会医療法人福島厚生会

○設置場所

福島県福島市光が丘1番地
 （公立大学法人福島県立医科大学内）

○研究体制

講座主任 錫谷 達夫
 教 授 大原 正志

○研究テーマ

腸内環境とがん・生活習慣病等の病態・予防に関する

包括的研究

■ Fukushima国際医療科学センターのグランドオープンについて

Fukushima国際医療科学センターは、福島県復興計画にも位置付けられた福島復興の大きな柱の一つであり、地域社会を医療という分野から再生・活性化し、その復興の姿を全世界に向けて発信する重要な役割を担っています。本センターは、5つのセンター（放射線医学県民健康管理センター、先端臨床研究センター、医療-産業トランスレショナルリサーチセンター、甲状腺・内分泌センター、健康増進センター）と2つの部門（教育・人材育成部門、先端診療部門）から構成されています。今後長期にわたり事業を推進するために、平成26年5月より施設の整備を進めてまいりましたが、平成28年1月末に「環境動態解析センター棟」と「先端臨床研究センター棟」、6月末には「災害医学・医療産業棟」、そして10月末には「ふくしまいのちと未来のメディカルセンター棟」が整備され、12月にはグランドオープンを迎えました。

本センターの事業は、原子力発電所事故後の県民の健康状態を長期にわたり見守ること、最先端の医療機器を用いて病気の早期発見を行い、早期に高度専門的な治療を提供すること、そして、最新の診断・検査薬などを通じて医療産業を育て地域復興につなげることであり、このような事業を通して病気の予防と県民の健康増進、更には健康寿命を延伸することを目指していきます。

編集発行 公立大学法人福島県立医科大学
 事務局企画財務課

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地

TEL 024 (547) 1013 FAX 024 (547) 1991